

短編集「もぎりさん」上映

豊橋・プラット 主演・片桐はいりさん登場

スロータウン映画祭



映画ともぎりのエピソードなどを語る片桐さん＝プラットで

「第23回とよはしまちなかスロータウン映画祭」(実行委員会主催)は25日、「穂の国とよはし芸術劇場プラット」で映画館のもぎりを題材にしたショートムービー集「もぎりさん」の上映会と主演の片桐はいりさんのトークショーを開いた。開演前には片桐さんが来場者のチケットを「もぎる」サプライズもあった。

片桐さんは学生時代に

銀座文化劇場(現シネスイッチ銀座)で入場券のもぎりアルバイトの経験がある。俳優として活躍する一方、2011年頃から自宅近くの「キネカ大森」でもぎりや清掃を手伝うほど映画好き。

「もぎりさん」は各3分弱の話題を12本集めた作品で、愛好者が共感できる「映画館がある」を面白おかしく描いた。今も映画館で働く片桐さんらが4人

の監督らにアイデアをもち寄ったという。昭和の雰囲気を残す単館や名画座と呼ばれる劇場が減る中、観賞マナー



来場客の入場券をもぎりする片桐さん

の変化について話題が尽きた。片桐さんは「ポップコーンも持ち込みづらい時がある。昔は弁当を食べる人など暗闇でいんな悪さをする人たちがいた。キネカ大森ではいかに散らかして結構。れぐらしい夢中になる作はいい映画だ」と独自の評価軸を示した。

開場40年を迎えたキカ大森でも、新型コロナウイルス禍を機に、原としてもぎりはなくなった。今後したいことについて、片桐さんは「日本の映画館や上映会を存続してほしい」といい、客と交わる手段としての魅力を語った。

【加藤広宣】